

能登町新保のキリコに関する基礎的研究

指導教員：石川工業高等専門学校 建築学科・准教授・熊澤 栄二

参加学生：内堀健太・四方葵・佐々木理紗

1. 調査研究成果要約

能登町新保では約 40 年ぶりのキリコを造営に際して、この地区が後世に受け継ぐべき資産として新保地区固有のキリコにかかわる歴史的・文化的な背景を明らかにすることが望まれている。本ゼミナールでは住民との対話を基礎におきながら現行キリコ祭りの調査と地域文化の特性分析を行った。具体的な成果としては、①宮大工の五田氏のキリコの制作過程のビデオ編集、②キリコ絵の由来の究明、③キリコの形態学的な研究、④3次元計測によるキリコの電子データ化、を実施した。

2. 調査研究の目的

【背景】能登町新保町では、キリコの老朽化に伴い新しいキリコを平成 21 年に造営することが決定された。特にこの地域は艶やかな女性絵を描く風習が残されており、この起源を探ることをはじめてとして、キリコにかかわる文化的かつ建築学的な調査研究を基に新しいキリコ造りに活かしていきたいとの希望があった。

【目的】本ゼミナールでは、新保地区の住民の要望であるキリコ絵の起源について学術的に答えることが目的である。しかし今後、この地区が子々孫々にわたり「キリコ祭り」という地域の文化を継承していくという大きな目的に対しては寧ろ、奥能登全体という眼差しの中でこの地域の特異性（キリコ絵の特異性も含めて）を明らかにすることこそがより本質的な問題と言えるであろう。

従って本ゼミナールでは、伝承すべき地域文化としてのキリコ祭りの「現状の記録と保存」、さらにその地域文化の特性を明らかにするための「奥能登地域全体との比較研究」という大きく分けて二つの活動を行うことを目的としている。

3. 調査研究の内容

3. 1 調査研究の方法

I.現状の記録と保存：

今後の地域文化の伝承のためには、住民との話し合いの中で改めてこの地域で何を記録し継承していくのか議論し、以下の具体的な活動を行うことに合意した。

<a.新しいキリコの制作プロセスの映像化および編集協力>

住民が昨年度より撮りためていた貴重なキリコ制作の記録について、データを整理編集することで一連の記録映画を制作し後世に伝える。

<b.キリコ本体の電子計測による 3次元データ化>

キリコは制作者の長年の経験に基づいて制作されるため、基本図面が特に保存されていることはまれな状態である。今後、キリコ文化の継承の観点からも、正確な三面図の保存は必須である。そこで本活動では（株）国土開発センター計測部との協力のもと、老朽化したキリコの 3次元計測と電子データ化を実施する。

<c.住民のヒアリング調査>

キリコに関する古老達からのヒアリングにより、口伝えでの伝承譚やその地域独自の言葉などの収集を行う。特に、祭神に関する神話をはじめとして過日の祭礼日、御輿渡御のルートなどの今では曖昧になりつつある情報を話し合いの中で検証する。

<d.キリコ祭りの祭礼調査>

現行の祭礼について、できる限り詳細に時系列を追って随行調査を行う。特に、祭礼所作や設えなどを中心に記録に留め整理を行う。

II.奥能登地域全体との比較研究：

新保を契機としたキリコ本体の「形態学」ともいうべき新たなる研究領域の開拓に向けて、キリコの構成要素に着目した地域分析を確立する。

<e.能登町全域におけるキリコ本体の比較調査>

『能登町キリコの語 1 / 2』（能登町ふるさと振興課 所蔵）の能登町全域のキリコ写真を基に、キリコの各要素に注目してその地域差を部落単位で分析を行い、地図情報に重ねて分析を行う。（なおこのようなキリコの構成要素に注目して地域分析を行った研究は皆無である。）

<f.能登町周辺域におけるキリコ本体の比較調査>

能登町のキリコ分析の結果を踏まえて、能登町の隣接する珠洲市の全公民館区の館長の協力のもとヒアリング調査を行い、奥能登におけるキリコの文化的な影響圏の分析を行う。

3. 2スケジュール

具体的な調査スケジュールは以下の通りである。

6月：新保地区住民との調査研究の話し合いおよび調査方向性の決定(a)

7月：キリコ制作の記録およびキリコの3次元測量の実施(b)

8月：キリコ制作の記録および住民ヒアリング(c)

9月：新保秋季祭の祭礼調査(d)

10月：ヒアリング調査のデータ整理(c)および3次元測量の電子データの整理(b)

11月：電子データの整理(b)および能登町全域のキリコ形体分析(e)

12月：キリコ写真展での3次元キリコデータの展示(b)および珠洲市の全公民館区のヒアリング調査(f)

1月：データの分析およびキリコ制作記録の編集(b)

※a～fまでのアルファベットは、「3.1 研究調査の方法」のそれに対応する。

4. 調査研究の成果

4. 1 現状の記録と保存（調査）

a. キリコ造営部会ヒアリング調査（6月25日）

【今回の調査目的と意義について】キリコの起源、女性の絵の由来、キリコの構造の観点からキリコを研究し、次世代に伝えていく。新造営キリコ制作の過程をDVDにまとめ、後世にまで残る記録とした。

【祭りの日程の変化】新保地区のキリコ祭りは元々9月23日宵祭り、9月24日日本祭りの日程であったが、昭和40年に7月13日に変更となった。現在ではまた9月23日に戻ったが、1日だけとなっている。時間も昔は夜中にまで亘って祭りを行っていたが、現在は子どもが起きている10時～19時

30分と時間を指定している。

【新キリコ造営に関して】新造営キリコは宮大工の五田氏が制作している。木材は柳田の樹齢およそ200年のカネアテの木を2本使用。木の切り出しの前には、細いしめ縄を木に巻きつけてからお祓いをした。1本の木から四本柱をとっている。ヒアリング当時には、屋根は完成していたが、まだ柱とはつながれていなかった。尚、新造営のキリコにはタカフクを省くことになった。

【ナカフクの女性の絵に関して】女性の絵は全て立ち絵となっているが、座っている姿だとキリコが座って動かないという言い伝えからきている。また、傘を差している絵も、雨が降るといふ言い伝えより拒まれている。表面の文字についてもなぜ3文字なのかという疑問が寄せられた。

【その他要望】少那比古名神社という社名から神社の場所について、御神体についての疑問が寄せられた。

b. 新保キリコの計測（7月15日）

(株)国土開発センター計測部の協力により、3次元レーザースキャナーによるキリコの点群データをもとに3次元のベクトルデータの作成の試みを行った。屋根、ナカフク、四本柱、高欄、台の各パーツについて3次元レーザースキャンならびにベクトルデータ化を(株)国土開発センターで実施し、石川高専側で各パーツのベクトルデータのCADソフト上での合成とレンダリングによる3次元モデルの作成を行った。



写真1：新保キリコの計測

c-1. 新保公民館ヒアリング調査（8月11日）

【新造営キリコの納入日程】お盆前に仮組みを行い、9月18、19日に納入。電気工事等を行い、9月22日に組み立て、9月23日の祭礼当日には、祭りの前に新造営キリコのお祓いを行う予定。

【祭り御進行のルート】新保地区では、先に浜へ降りてから上を回るルートと、上をまわってから浜へ降りるルートが毎年交互に採用されており、平成21年の祭りでは上をまわってから浜へ降りるルート、つまり五色浜・県道・町内・宮入りの順となる。



図1：キリコの3次元モデル

【祭礼組織】新保地区では8名の祭礼委員から1名祭礼委員長が選出される。9月24日には反省会(清算会)が開かれ、算如酒などが振舞われる。

c-2. 新保地区古老ヒアリング調査（8月21日）

南口正氏 脇坂辰也氏に話を伺った。

【現在と過去の祭礼詳細の違い】

・日程の変化：昭和40年までは9月23、24日の二日間、昭和40年から59年までは7月13日、それ以降は9月23日と日にちが変化している。

・ルートの変化：昔は海浜の御幸をしていたが、20年前の護岸整備に伴い、海浜の御幸は行われなくなった。

・キリコの変化：昔のキリコは5間ほどの高さがあり、当時は電線を道路に這わせるなどの対策をとっていたが、現在は高さが3間ほどに縮小されている。

かたね棒は杉からアテに変化し、長さも昔と比べると短くなっている。

・御招待・よばれの変化：御招待の差し入れは酒1升、米お重1段分となっているが、昔はお酒の量が



写真2：新保古老ヒアリング調査

徳利1本分となっていた。よばれで出される料理は、赤飯、果物、イモ蛸、赤ズキ料理となっている。

・囃子・楽奏の変化：囃子は昔、太鼓・笛・鉦となっていたが、現在は笛がなく、太鼓・鉦となっている。掛け声の「イヤサカヤッサイ」には、「所在の栄えを祈る」という意味があるとされている。

【新保に残っている古語】

- ・ヒトスイ：1本のロープ（縄）
- ・べっちゃ：違う
- ・新保の「保」は村という意味で、「新保」は新しく出来た村を指している。

c-3. 新保地区宮司ヒアリング調査（9月3日）

松波の橘氏に話を伺った。

【秋季祭りの意味、日程】秋季祭りは新嘗祭としての意味があり、稲刈りの時期に合わせた日にちとなっていた。

【宮司の管轄範囲】昔は神主が1日で行って祭りを行って帰ってこられるまでの範囲であった。

【古来の祭司】元々は部落の長が「おやっさま」と呼ばれ、司っていた。現在の橘氏は、藤原頼長の流れを汲む、25、26代目である。

【御神体に関して】文政11年に社名と日付が残されている。少那比古はスサノオの系列に属し、医薬に関する神である。御神体は金色の尻高だが、1度盗難にあっている。

【キリコの由来】御明しとして神の道案をしていた。

d. 新保キリコ祭り（9月23日）

【例祭】9：48

祭主による例祭開始の宣言 → 祝詞奏上 → 祓いの儀
→ 神移しの儀

【キリコお祓い】10：12

祓い詞 → キリコの塩清めの儀

新しいキリコでは塩に米をまぜる

【神輿の巡幸・御招待】10：30

巡幸開始

22軒の御招待、4か所の辻参りを行う。

全御招待を終えると、神輿・キリコは神社前の広場に帰ってきて、そこで神輿・キリコの乱舞が行われる

【入り宮】18：48

入り宮 → 神移しの儀 → 祝詞座にて神饌の儀 →
祓いの儀（神饌・祭主・氏子の順で行う） → 撤饌の儀 →
玉串奉奠 → 祭主による秋季祭終了の宣言

4. 2 奥能登地域全体との比較研究（分析）

e. キリコの写真分析（能登町）

キリコの各要素に注目して地区ごとに整理を行うと、地域の偏りがあることが分析された。能登町の大半を占めるキリコの特徴というものには確かに見受けられるが、その中で特に珠洲市寄り、輪島市寄りの地区では、双方のキリコの形態が反映され、その地区特有のキリコが確立されていると言える。



写真3：例祭



写真4：キリコお祓い



写真5：入り宮



図2：漆塗り（赤）と白木（青）

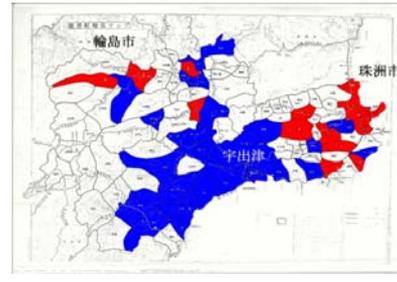


図3：タカフクの有（赤）無（青）



図4：台（赤）とケタ（青）

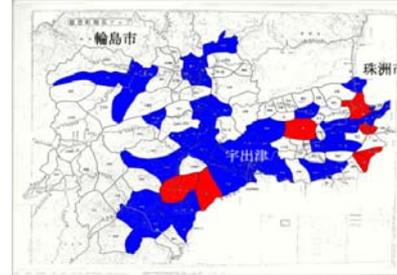


図5：美人画の有（赤）無（青）

f. キリコのヒアリング分析（珠洲市全公民館区）

能登町の写真分析ではキリコ形態の偏りがあることが判明した。しかし、ナカフクのキリコ絵に関して、能登町内だけでは地域差が不明確であったため、珠洲市でキリコ絵を主としたヒアリング分析を行った。その結果、珠洲市のキリコ絵は種類が豊富であり、他の地域にはない見られない特徴であると考えられる。



図6：美人画，武者絵が確認できた公民館区



図7：龍の絵が確認できた公民館区



図8：アニメ絵が確認できた公民館区



図9：風景画の有(赤)無(青)が確認できた公民館区



図10：鷹(赤)七福神(青)の絵が確認できた公民館区



図11：ドテラ(赤)と法被(青)の公民館区

4. 3 小結

本節で扱ってきた調査研究について、以下に考察を示すことにしよう。

4. 1では、キリコ祭りの「現状の記録と保存」という観点から活動を行ってきた。本ゼミナールの方針としては、「もの」として（キリコの物理的な特徴）の保存、「こと」として（祭礼所作や行事）の保存、そして人々の「記憶」として（伝承や口伝）の保存という大きく三つの活動に要約されるであろう。調査を進めて分かったことは、人々の生活世界の変化が如実に祭礼やキリコの変化として刻まれていくということであった。つまり「もの」としてのキリコの保存だけではなく、その背景ともなる「こと」の祭礼保存が重要であることが理解できた。一方、伝承や口伝は、祭礼全体を理解するための根拠として人々に生きて働く事実であることも理解できた。これらもの・こと・記憶の三つが保存されて初めて真の保存活動になることが明らかにされた。

4. 2では、図2 - 5で挙げた4つの要素の他に浮き字や提灯などいくつもの要素を分析し、地域差を確認した。結果、新保を含む東エリア、宇出津を中心とした南西エリア、輪島市付近の山間部エリアの3つのエリアに分けることができた。南西と山間部では落ち着いたキリコが目立つが、東エリアでは様々な要素が入り交じったキリコが多くなっており、その地区特有のキリコが多くあると言える。さらにその東側に位置する珠洲市では比較的華美なキリコを造営していることが判明し、キリコ本体の要素分析が地域性を見る上で新たな視点を提供することが明らかになった。

5. 調査研究に基づく提言

新保地区を中心としたキリコ祭礼文化の保存と地域差について調査・考察を行ってきたが、今回の成果を踏まえて、奥能登の祭礼文化について以下提言を記す。

- a. 【データベース構築】キリコ祭りの継続のためには、奥能登全体のキリコ祭礼の調査資料を集積したデータベースが必須である。象徴的なキリコの保存だけではなく、その背景ともなる祭礼調査および地域の伝承を記録保存する必要がある。
- b. 【キリコ形態学構築】キリコの形態学ともいべき諸要素の地域性を今後学術的に整備することにより、奥能登のキリコ文化の諸特性を具体的に把握可能である。
- c. 【奥能登観光産業化】奥能登の活性化として、祭礼文化を本格的な観光産業化するの重要である。特に、学術的なデータベースに裏打ちされたツーリズムの企画や文化遺産登録を行うことにより奥能登の地域特性を活かしたまちづくりの可能性が拓けるものと考えられる。

6. 調査研究の自己評価

6. 1 反省

今年度のヒアリング及び祭礼調査を通して、新保地区のキリコ文化の実態を深く知ることが出来た。新保地区は珠洲市寄りのキリコ文化を持っていたため、他の能登町のキリコとの相違点が多く、今回のキリコの構成要素に注目した地域分析を行うきっかけとなった。キリコの構成要素から地域差を追う分析は今後、キリコ文化の起源・由来を探究する上で有効なデータとなることと期待している。

6. 2 課題

今回の写真による分析だけにとどまらず、各地区のヒアリング調査等を交えながらより詳しいデータとしていくことが今後の課題として挙げられる。